



「日本家族看護学会第31回学術集会」の報告と御礼 第31回学術会長 井上 玲子

第31回学術集会は、「いま、語り合おう！臨床家の実践知、研究者の探究知、そして家族の体験知 ～ダイナミックな融合をめざして～」と題して、2024年9月14日（土）～15日（日）に神奈川県鎌倉芸術館で開催されました。1125名に参加いただき、無事に終了できましたこと、企画運営委員を代表して感謝申し上げます。特別講演をはじめ、教育講演、シンポジウム、コラボ・ランチョンセミナーと複数の指定演題の他、30周年記念企画や家族会企画など、本学会の開設30周年を記念した特別企画も御用意いたしました。御講演いただきました講師の皆さまに深く感謝申し上げます。

また一般演題では91題（口演：36題 示説：56）と素晴らしい成果をご発表いただき、学術集会 会長賞として、示説部門と口演部門の2演題を表彰させていただきました。詳細は大会ホームページをご覧ください（<http://jarfn31.umin.jp/>）。

例年好評の交流集会では23題と、各会場とも大勢の参加者が活発で有益なディカッションが交わされており、家族看護にかける皆さまのエネルギーを感じることができました。

大会翌日には、当日会場にお越しいただけなかった方、会場で指定講演など見逃してしまった方のために、10月31日まで研究に有用なソフトウエアの御紹介動画などと合わせ12本をオンデマンドにて配信いたしましたので、多くの皆さまにご視聴いただけたのではないかと思います。

参加者アンケート（回答者238名）では「とても良かった48.7%」「良かった45.8%」と評価をいただき安堵しております。なお当日は大変な残暑であり、会場内の環境には厳しいご意見もありました。現地で参加された皆さまには学会の運営にあたり不行届きの点多々あったかと存じますが、何卒、御寛容下さいますようお願い申し上げます。

最後に学術集会の開催にあたり、全国より御登録いただきました看護職および準備、運営に関わっていただいた関係者の皆さまに、この場を借りて御報告と御礼とさせていただきます。



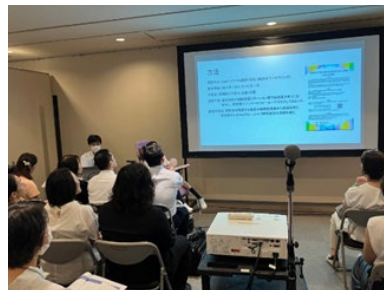
交流集会「家族とともに高めていく、医療的ケアを必要とする子どもと家族のQOL」を企画・運営して

NPO法人 Ohana kids 吉備 智史

この度は第31回学術集会在盛会に終わりましたこと、心よりお慶び申し上げます。当日はまだまだ夏の暑さが残る中、会場は負けず劣らず大勢の参加者の熱気であふれておりました。個人的には30周年記念企画が特に印象に残っていて、法学×看護学の視点で家族の形について白熱した議論が繰り広げられていました。

私たちは表題の交流集会を実施いたしました。当事者でもある弊社理事長とともに、医療的ケア児と家族が置かれた現状について情報提供をいたしました。2023年度に実施した調査報告も併せて実施し、法改正に伴う医療的ケア児と家族の日常生活や学校等での支援体制の変化について議論いたしました。参加者からは、家族の頑張りや悩みを知れて参考になった、少しでも力になりたいといったお言葉をいただきました。

50名程度を想定しての会場設定でしたが、実際には部屋の外まで参加希望者が連なる大盛況で、参加者アンケートではお部屋が狭かったとクレームをいただくほどでした。関心の高さを実感しつつ、引き続き情報交流の場を設けていかなければと気を引き締めた次第です。



学会30周年記念誌誕生秘話と今後に向けたお願い 30周年記念誌タスクフォース委員長 上別府 圭子

学会の30周年を迎えるに当たり記念誌を編纂し、2024年8月に発行が叶いました。これまでの学会の歴史を遺すことができたことと安堵するとともに、皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。先輩方に喜んでいただけたことも、嬉しいことでした。

誕生秘話(1)ですが、タイトルは、私の考えた24の案の中から荒木理事長含む数名に選んでいただきました。案の中には「家族の力を信じる」とか「家族看護学の旅は続く」とかはまだしも、「1+1>2の看護」といったマニアックなものまでありました。これにならなくてよかったです(笑)。誕生秘話(2)は表紙デザインについて、私の美術部長魂に火がついてしましまして、こんなにデザイン案を出してきた先生は初めてと、編集者。色については、学会ロゴマークの原作者である法橋尚宏先生指定のDIC 112を使用することは決めていましたが、最終的に、地を白にするか、地もこのピンクにするかの選択が残りました。こちらも数名にご意見をいただき、個性的で情熱的なピンク地に決定したのでした(「ピンクの方が本棚から見つけやすい」という声もありました)。

これからの学会を担う若い方にお伝えしたいのは、30年はやっぱり長すぎたということです。歴代大会長に関して全員を追うことができず、大会のポスターや抄録集も全てを収集することは叶いませんでした。ですからこの次は、50周年と言わず、是非、40周年でも、あるいは重要なデータを蓄積していくシステムを創るなどの工夫もあるかも知れませんが、まめに記録をまとめていただきたいと思います。地球や社会などのスーパシステムの変化と共に、そして家族の変化と共に、学会がどう進化しているのかを記録にとどめておくことは重要です!



日本家族看護学会 第32回学術集会のご案内

- ・テーマ：家族看護はえんむすび
- ・学術集会会長：今野 美紀
(札幌医科大学
保健医療学部看護学科 教授)
- ・会期：2025年9月20日(土)、21日(日)
- ・会場：札幌市教育文化会館
(北海道札幌市中央区北1条西13丁目)
- ・演題募集期間：
2025年 2月4日(火)～4月23日(水) 正午



～学術集会長からのメッセージ～

一般演題の登録、交流集会の募集を始めています。募集期間は2025年2月4日(火)から4月23日(水)正午までです。

秋の札幌で、家族の発達と健康を支える看護を探求し、家族内にとどまらない様々な“えん”を創る看護について、熱く語り合ひましょう。

詳細はホームページをご覧ください。メインプログラム(特別講演、教育講演、シンポジウム、市民公開講座、オンデマンド配信プログラム)の情報も公開しています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

<https://www.k-cav.com/jarfn32/index.html>

研究促進委員会 研究奨励賞

受賞論文

患者の同性パートナーと患者と疎遠な家族等の脳死下臓器提供の意思決定における内部移植コーディネーターによる総意形成支援
(2022年 第27巻 第2号 掲載)

著者

石橋ひろ子、朝居朋子、久納智子

(敬称略)

実践促進委員会

家族看護グッドプラクティス賞

「7年目を迎える
東北家族ケア研究会の取り組み」

受賞者

加藤久美、畠山とも子 (敬称略)

＜編集後記＞ 本号は、第31回学術集会と30周年記念誌に関する記事を中心に企画しました。学術集会は、臨床家の実践知、研究者の探究知、家族の体験知を感じ、有意義な議論や交流の機会となりました。また、30周年記念誌を通して、学会の歩みとさらなる発展への期待が伝わってきました。ご寄稿くださいました先生方に感謝申し上げます。
担当委員：松坂 由香里・村田翔 委員長：荒木田 美香子